

山田町の百年



ミルク道路 山田橋より撮影

ひだまり語る会

〔 竹内 雅彰、・ 大川 久隆 ・ 矢田 親生 〕
〔 協賛 山田町自治会 〕

平成27年9月

平成26年9月より“ひだまり語る会”にて皆さんと山田町に関することを話し合ってきました。話し合ってきたことをここに纏めてみました。

目 次

1. 山田100年の記憶Ⅰ	P 1
2. 山田100年の記憶Ⅱ	P 13
3. 山田町の概要	P 18
4. 山田町の範囲図	P 19
5. 山田町の小字名地図	P 20
6. 山田の地名、呼称	P 21
7. 山田の文化財、記念碑、構造物	P 26
8. 山田町に於ける“歳時記”	P 30
9. 昭和25年頃の山田の商店・工場地図	P 37
10. 山田の歴史（年表）	P 38
11. 山田の言葉	P 46
12. 山田100年の写真集	P 48

山田100年の記憶1・(大正—昭和前期)

平成27年6月14日

ひだまり語る会

山田の地は江戸時代菰野土方藩に属し、明治時代には廃藩置県により三重県下第老大四乃小区山田村、またあらため三重県菰野郡山田村となったが、明治22年(1889年)には近隣の小山村、六名村、堂ヶ山村と一緒に三重県三重郡小山田村となった。

当時の山田村は戸数368戸、1,721石と記録がある。4村合わせた小山田村は595戸2,876石であった。人口は2,897人であった。

当地は、鈴鹿山脈の山麓に広がる自然豊かな、山あり、川あり、田畑がある集落である。東海道(国道1号線)の石薬師宿、庄野宿から近く比較的便利な村であった。

小山田村については昭和8年ごろ作成の小山田郷土読本に以下のような記述がある。

小山田村

「明治天皇御製

小山田の里のけぶりも年々に

たちそう世こそ楽しけれ

小山田とは田舎といふわけであるが、我等の郷土小山田村もその名にふさわしく平和に年々発展して来ました。

小山田村は3百年前にすでに2百戸の農民が山の原にそうて居住し、水利を得て田地を開いていたといわれているが、いまでは戸数7百余、人口3千4百余の大きな村となって、山田、小山、西山、内山、六名、堂ヶ山の6区にわかれています。

東は内部村・四郷村、西は水沢村、南は鈴鹿郡久間田村、北は桜村・川島村と隣あっていて、四日市へは3里ばかり隔たっています。

考えようによっては私どもの村も随分山の中で不便ではあるが、然し私どもにとっては他に二つとない郷土なのです。小山田村民の母の地なのです。

村里は林に包まれ、丘に囲まれ、川に沿ひなどして互いに隔てられているが、どの字でも働くに十分な田と畑と山林と竹藪とを持っています。そうして、村民は田を植え蚕を飼い薪をとり生活には何一つ不自由なく暮らすことが出来ます。私どもはかうした平和な天地に住みなれて、朝は丘の上に太陽を迎へ、昼は等しく鈴鹿の山脈を仰ぎ、夕べには太陽をその後ろに送って一日の感謝を捧げるのです。

殊に鎌ヶ岳や野登山は春夏秋冬四季を通じて私どもの慰安となり、又村の气象台ともなるのです。春雨にも夕立にも秋晴れにも雪にも言い知れぬ心安さと懐かしさを与えて呉れるのも、晴れ雨曇りから夕立雷時雨等を予め知らせて農事のいろいろに便宜を与えて呉れるのもこれ等の山です。

このように平和にさせる幸福を有り難く思うと同時に又一方私どもの先祖や先輩が如何に努力してより良い村にして来られたかということをおぼねばなりません。農業を盛んにして養蚕業、製茶業等は県下でも名高く、近年は西瓜、瓜等の栽培も盛んになり、都市に移出される顎も少なくありません。尚此の外種々の副業にも注意されつつあります。

道路も四日市道が大体出来上がり引き続いて堂ヶ山、西山、六名方面のも着々計画が進められて居り、また先には電話も新しく設けられる等村は生気に溢れています。

丁度今経済更生の旗をかかげて小山田村発展のために村民一体努力していただける時、私どもも共に力を合わせ

て励まねばなりません。」

小山田村郷土読本 三重郡小山田尋常高等小学校編より 一部漢字は新字体に変更した

いまから100年前の1915年大正4年には小山田村の戸数は662戸、人口は3591人になっていた。その後の推移は下表の通りである。

小山田村	明治22	大正4	大正14	昭和5	昭和10	昭和15	昭和20	昭和25
戸数	595	662	710	718	720	705	825	
人口	2897	3591	3343	3397	3339	3219	4425	

資料 四日市史第18巻近世通史より

当地は古から記録が残るごとく、かなりの人々が暮らす集落で、それなりの文化があり、明治の代でも早く学校が開設され子供の教育が行われた。このことは、昭和50年9月刊行「小山田小学校100年の歩み」に詳しく書かれている。

近隣の四郷村室山では製糸が盛んに行われるようになって、製糸会社、紡績会社が設立されている。山田でも養蚕が盛んに行われるようになって、製糸工場が営まれるようになった。そのお蔭もあって経済も豊かになってきたと思われる。大正2年の三重県資産家一覧表※1に記載された家が小山田村で34戸あった。

※1 大正3年4月編纂三重県伊勢志摩資産家一覧表（興信倶楽部編）



「写真：郷土の全景写真」昭和初期

写真 矢田活司氏提供

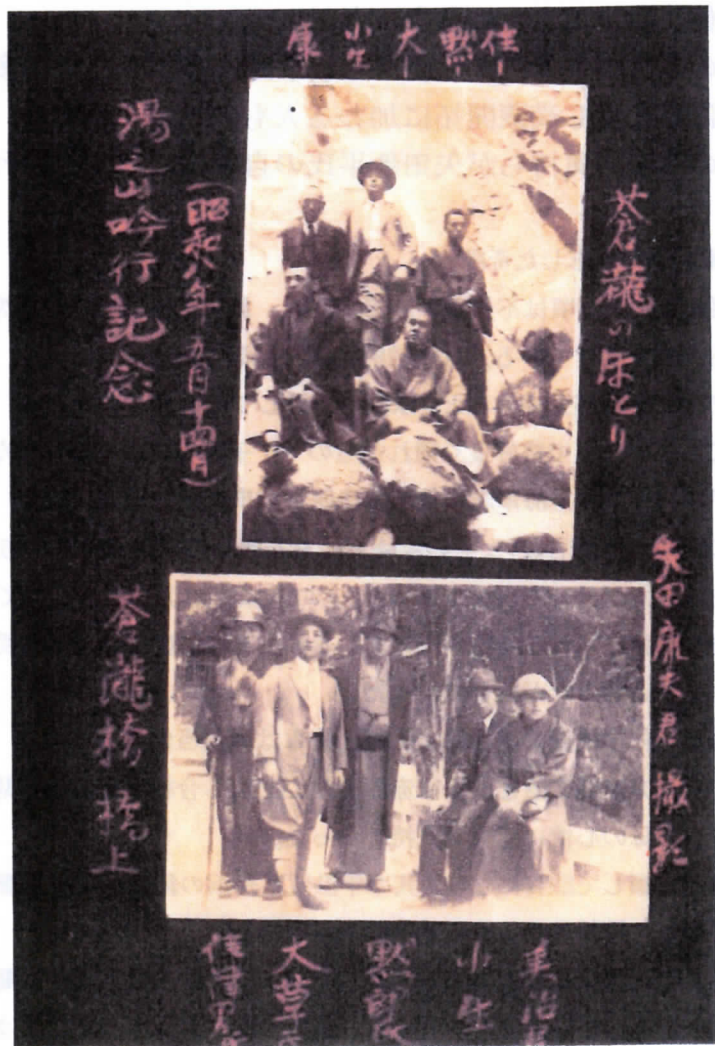
今から100年前の大正3年6月2日、山田に初めて電燈が灯った。燭台たよりの生活から電燈へと、次第に普及していった。

大正時代は大正ロマンが開いたと言われるが、地方もそれなりの文化が広がった。その一つに俳句が盛んに読まれた。

その片鱗が「かやつり草舎・俳句集」昭和53年竹内弘整理にみられる。

昭和前期、田舎の生活を詠んだ句の一部を選んで記載する。

孫つれて 尼講衆や 大根焚
竹内黙郎
昼寝して 水盗まれて いたりけり
潮田ヒヤシンス
炭竈に 吹きたまりある 落葉かな
平尾呉鳩
十五夜の 月待つ門を 掃きにけり
矢田佳津男
こおろぎや 真夜中起きて 炭をつぐ
矢田佳津男
秋晴れや 鈴鹿の裾の 一部落
竹内美雀
坂の上 大根はさの たわみけり
竹内黙郎
打ち晴れし 鈴鹿も裾や 桑くくり
竹内美雀
さげてゆく 囀りをり 鳴きにけり
矢田佳津郎
傘すぼめ 雪をれ竹を くぐりけり
平尾呉鳩



「写真：俳句の会」写真 竹内雅彰氏提供

昭和に入ると経済、金融の変調があり、昭和恐慌と言われるような厳しい時代から、太平洋戦争につながっていく。

農業生産の中心はあくまでもお米であったが米の石高は江戸時代からそれほど増加していない。明治5年の地租改正時に調査確認された石高は次のようだった。

山田村	1721石	世帯数は368戸
小山村	492石	世帯数は122戸
六名村	178石	世帯数は28戸
堂ヶ山村	485石	世帯数は77戸

なお、江戸時代1830年から1859年の調べでは小山田村（山田村と小山村相当）の生産量は、
石高：1417石2斗5升、田：92町5反畝12歩、畑：33町1反1畝9歩（西山事紀資料より）

明治40年ごろになると小山田村の戸数は604戸、田は2990反、畑2764反とあり、
増加している。三重郡治一覧表1907年

この地区においても製糸工場や製茶工場が営まれていたが、不況の影響を受けたし、戦時下
には休廃業することにもなった。

当時の若者の置かれた状況から、軍隊に志願する者が多かった。また、新しく建国された満
州国に夢を託し満蒙開拓に加わる人もいた。

当時の若者の気持ちが矢田新平氏の自叙伝によく描かれている。

海軍志願兵に志した奇縁

「昭和6，7年頃は不景気の旋風が吹き、農村の経済状態は非常に悪く、食べるのに精一杯の生活であり、
村でも恩給を受けている人は比較的裕福な生活である。

四日市港に軍艦が入港すると、水兵が上陸して街を歩く姿を見る。帽子に軍艦〇〇文字の入ったペンネットを
着けて、スマートで格好良く憧れたもので、子供の頃より海軍になることが芽生えていた。

昭和7年（17才）海軍志願兵応募に四日市市役所で検定（審査）を受けたが、体格検査で不合格となる。何
十倍の競争で無理もない。その年陸軍にも志願して旅順銃砲隊を志願したが、これまた簡単に身体検査で身長、
体重を計ただけで不合格であった。其の時徴募官より、「若くして然も外地へ志す立派な精神であるが残念。
乍ら陸軍に耐えられる身体が出来ていない」とのお褒めの言葉を受ける。海軍と異なり陸軍に志願する者は少
なく、有利と思ったが駄目であった。

後に海軍で体格検査で不合格なれば、陸軍は尚更当然と思った。

それでも夕方帰宅すると、母は赤飯を炊いて若し合格したらとの思いで待っていた。

吾が子への母の心情に感謝の気持であった。

陸海軍に志願して駄目になり、其の年滋賀県長浜の鐘紡工場に就職する。長浜は浜縮緬の織物の産地で名が知
られて居り、鐘紡長浜工場も絹織物工場である。

昭和8年正月は長浜工場で迎えて、其の年の海軍志願兵募集の掲示板を見て直ちに長浜町役場へ願書を提出
する。志願兵応募審査は長浜公園内公会所で施工される。滋賀県は海がなく、海軍にも無頓着か志願者も少な
く若しかの希望が持てる。

思いに違わず合格して仮合格書を受け取り第一関門は過ぎたが、本採用の通知を受け取るまでは成否は不明で
ある。何日か過ぎて役場より合格証書が来た知らせを受け、早速役場に行き「おめでとう」の言葉を受けて、
証書と入団手引書を受領する。早速退職手続きを済ませて同僚の送別会等受け、二日後に退社、古里に帰る。

父母はすでに合格発表を新聞で掲載されている記事を見て知っていた。

入団は5月1日で一ヶ月程しかなく、落ち着かない日々が続く、出発前日に親戚一同を招き祝賀会の宴を催し
て貰う。・・・」海軍生活自叙伝 1933～1946 矢田新平著より

また、小山田小学校の元教師の平尾靖二氏が「小山田小学校100年の歩み」に下記のごと

く、当時の学校での様子を書いておられる。

思い出の一端・

「私は大正13年4月～昭和20年12月末までの奉職で、戦後の教育は全く知らない。小山田は純農村で純朴平和で米麦蚕茶等の生産が主である。交通便なく児童は山坂越えの通学。しかし質実純真よく勉強し出席率もよい。毎年5月には10キロ余り歩いて西部10校運動会に出場（5年生以上）、よく走った。成績も中位。春蚕の終わるところから農家は猫の手を借りたときに農繁休みとなり、高学年はよく手伝った。

しかし昭和3、4年頃からの農村不況の嵐に見わたし、農村経済の呼び声高く、特に本村はその指定村となり、昭和農村一丸と5ヶ年計画実行に邁進、学校教育もこれにそくして「勤儉」実行強調。世は一時もじつとはしていない8～9年からか「非常時」言葉が漲る。国中が緊張する。

昭和12年夏、日支事変勃発して予想外に戦域は広がり、戦争となり、世の中は戦時色でおおわれてしまった。以下、私の記憶をたどって書くと「一言でいえば小学校の児童もいろいろの事をしている」

応召で出征する兵士の見送り、また戦死された方の悲しく遺骨のお迎え、応召家庭への勤労奉仕。昭和17年頃であったか、雨が田植時になく特に六名区西山区では空植（からうえ）をする児童がめいめいやかんで、水を施す。雨が降るまで早朝にこれをする。食糧増産として下の運動場や少しの空き地にも南瓜をつくる。上の運動場は甘藷を作る。また資源確保として春蚕のあとすぐ桑の木の皮を剥いで出荷、日曜日には児童は茶の実拾い、秋すぎからドングリの実、かしの実拾い、彼岸花の球根の握取り（酒の原料）高学年の男性は軍馬の飼料の乾草づくり。兎を飼って集荷日に役場に持ってくる。

写真：勤労奉仕



写真竹内雅彰氏提供

その他いろいろの事をするが何れもお国のためだ「滅私奉公」「一億火の魂となって」の精神。1日15日は神社参拝。戦争は愈々きびしい防火訓練。避難訓練等なすべきことは多い。遂に昭和20年8月終戦を迎え平和の世になった益々平和を希う。」小山田小学校100年の歩みより転載字句一部訂正

太平洋戦争が始まると、国を挙げての戦時体制が敷かれ、経済は統制され、物は配給となり、今では考えられない生活を強いられた。

生徒も勤労奉仕に出だし、食糧増産につくした。

若い人は兵役に多く徴兵され、戦地に送られた。そして遠い異国で多くの戦死者が出た。

戦地からの引き揚げ、入植した満州からの引き揚げには多くの苦難を伴った。

矢田新平氏は前述の自叙伝に戦地でのこと、引き揚げの時の状況を詳しく書いておられる。

このころの交通機関は八王子駅からの三重軽便鉄道（大正2年に八王子諏訪間開通）、ある

いは国鉄関西線加佐登駅（明治23年12月5日四日市草津間開通）を利用して遠出した。駅までは徒歩か、普及してきた自転車を使った。なお、明治32年には関西鉄道名古屋湊町間が全通していた。

バスの利用は水沢から四日市駅間運行していたが、八王子野（現小林町）に出て乗る必要があった。山田までの乗り入れ時期についてはかなり遅れたようである。青年団が遊びに出かけるのは神戸の街で、自転車を飛ばしていった。

当時の農村の生活事情や、青年団の活動の様子は、山田町在住 森 茂氏の新著「グランドゴルフと昭和の記憶」にくわしく書かれている。青年団は青年学校生ともども村の祭り、行事で大きな働きをしてささえたことがなつかしく描かれている。縄ないは青年団の鍛練の場でもあり、収入源でもあった。

また、戦前盛んだった養蚕農家の朝の様子を小学生が上手に作文に描き、「四郷郷土読本」に掲載されている。

農家の子供には色んな仕事を担わされた。

子供の仕事

農家は季節を問わずいつも忙しい。子どもも暇があれば仕事を手伝うことになる。田植時は苗取り、苗運び、田植の綱糸引きから植えつけ等することいっぱいある。秋の取入れになると、稲刈り、束ね、はさ掛け、稲束の運び、稲こき手伝い、そして取り入れた粃は、家でのむしろ乾しの手伝いをする。朝、天気良ければ粃の入った箆を並べ、粃をひろげてから学校に行く。帰れば箆をしまう必要がある。

風呂の水汲みも子供の仕事、バケツで何杯も運ぶし、夏場はバケツを日向にならべあたためてから風呂に入れるのである。薪を運び、風呂焚きもするのである。事前に煤掻きをしておかななくてはいけない。

冬は冬の仕事があって、焚きつけのごうかき、枯れ木の伐採手伝い、割木づくり。荷車で山から家まで運ぶには大人一人では難儀、何せ坂道がきついのである。山の神からの内山道は急坂なので家族総出で押すのである。

暇を見つけては木を切り、割木をつくった。きれいに割れると気分がいい。

勉強の合間にするのも、気分転換になり丁度よかった。

女子は炊事、洗濯等家事手伝いに忙しかった。当時は洗濯機のない時代、すべて手洗だから大変であった。親が病気にでもなればすべて背負って仕事をせねばならなかった。

荷物の運送

山田は字があらわす如く山と田の村で山、坂が多く、農作物、肥料、農具、家具等の荷物の移動、運搬には多大の労力を要した。

通常は二つ輪の荷車か、タイヤのついたリヤカーを人手で引っ張って運んだ。牛馬を飼って、運搬する馬車屋さんがおおきな働きをした。

田畑に多く使った石灰は1俵3貫（11.25kg）もあるが、一人では25俵、二人引き

では35俵積んで運んだ。50俵以上になると牛馬を利用したと、菰野昔物語にでていますが当地でははたしていかほど運べたであろうか。

昭和になると山田にも四輪の自動車が見られるようになった。

四日市、津の夜空を焦がす空襲炎上にはこの世とも思えない恐ろしさを覚えた。長く続く太平洋戦争は美しい国土を焦土と化し、3百万人も戦死者を出して、やっと昭和20年8月15日の玉音放送により、終戦を迎え、新しい時代を迎えることになった。

経済の混乱、生活の苦難を伴ったが、戦後はアメリカの占領政策のもと、いろいろと新しい施策が進められた。

価値観が大きく変わって戸惑いもあったが、新しい憲法が制定され、民主国家として再出発することになった。

村民の楽しみ

山田では昔から続くお祭りがある。

早春三月九日のみくわ（御鋤）祭り、七月十四日の天王祭り、十月十日の秋祭り（例大祭）、十二月七日の山の神祭（新嘗祭）が続けられて来た。

また、春四月八日にはお寺での花祭りが執り行われた。

みくわ祭りには、六名から獅子舞がきて各家の木戸で厄除けの舞が行われる。

そして、こどもたちは厄年代表宅での獅子舞記念の振る舞い菓子目当てについて回る。太鼓や笛の音を聞くと懐かしくうれしい、この風景は今も変わらない。

天王祭りにはこの地域では一番早い夏祭りであり、近隣から若者が多く集まり、夜店もでて盛大に盆踊りが延々で行われる。



踊りは、声の良い音頭取りさんの歌で、江州音頭を踊るのである。日本橋から品川・・・と東海道、伊勢街道をへてのお伊勢参り物語で踊るのである。

水沢での江州音頭は熊谷直実物語で踊るのである。青年団があるころはとくに盛んに行われた。



写真 矢田活司氏提供

春の花祭りでは安性寺から暁覚寺までを、山田の子供たは楽隊を先頭にして、「むかしもむかし三千年花咲き匂う八日



ひびき渡って一声は天にも地にも我一人・・・」と歌ってさんを曳いてあるくのである。お寺では子供も大人も甘茶いただき、楽しい一日である。

写真 花祭りの象さん 竹内宜秀氏提供

祭り以外でも、子供はいろんなこととしてよく遊びまわったものである。

冬には凧揚げ競争したり、メジロ取りに励んだり、夏は毎日ほどたけだに、もうちゅうで水遊び、真っ黒になって遊んだ。一番の遊びはメンコ（ぶっけん）、ビー玉（かっちんだま）に興じた。女の子はお手玉や、鞠つきをしてよく遊んだ。

小学校の学芸会では講堂がいっぱいになるほど父兄が集まり、盛り上がった。生徒も一生懸命に歌を、劇を熱演したものである

運動会では、家族と一緒に食べるお昼の弁当が楽しみであった。なかには、豪華な重箱での御馳走もみられた。

ハイライトは一年生から六年生による部落対抗リレーで、総立ちで応援をした。

戦後しばらくは娯楽も少なく、旅回り劇団のしばいや映画会が講堂、神社で催され、随分人気を博した。

村の営み

農地改革があり、農業は自作農中心になったが、インフレ経済でどこも苦しい生活を余儀なくされた。現金収入が必要で、お金になる作物を作ってしのいだ。

代表的なものに、サトウキビ、さつま芋がある。サトウキビを搾って煮詰め、黒砂糖に加工した。山田には四ヶ所に加工場が出来、繁盛した。出来た黒砂糖は名古屋、大阪まで売りにいった。甘いものがなかったので、数年間はよく売れたようである。

さつまいもは大阪あたりからも買い出しに来たが、澱粉工場に売って現金をえた。田舎の経済を支えた重要な作物であった。

山田にはいろんな商店があり、村内でほとんどのものを入手することが出来た。

また、珠算塾、和裁塾もあり、多くのものが通い、交流もできた。



昭和25年当時の工場、商店を記載した位地図参照。

写真・宮崎珠算塾生八幡さんで記念撮影 竹内雅彰氏提供

村長さん

明治22年に小山田村が発足して、村が維持され発展してきた。学校が新しく建設されたし、道路が順次整備されてきた。この間の村長さんは次の13名の方である。

豊住 嘉吉	明治22年(1889年)5月～明治24年(1891年)5月
須藤磯治郎	明治24年(1891年)6月9日～明治29年(1896年)9月23日
平山 平衛	明治29年(1896年)9月27日～明治30年(1897年)1月
須藤磯治郎	明治30年(1897年)2月5日～明治31年(1898年)1月21日
矢田 久一	明治31年(1898年)2月5日～明治39年(1906年)2月4日
矢田六右衛門	明治39年(1906年)3月6日～明治41年(1908年)6月7日
豊住 梅松	明治41年(1908年)6月15日～大正5年(1916年)6月14日
長田 信吉	大正5年(1916年)10月22日～大正11年(1922年)10月1日
市川巳乃松	大正11年(1922年)10月22日～昭和5年(1930年)10月27日
青山新兵衛	昭和5年(1930年)10月28日～昭和13年(1938年)10月27日
田中 常一	昭和13年(1938年)11月5日～昭和17年(1942年)11月4日
伊藤 義雄	昭和17年(1942年)11月11日～昭和21年(1946年)11月10日
長田富次郎	昭和22年(1947年)4月7日～昭和23年(1948年)6月19日
矢田佐太郎	昭和23年(1948年)7月26日～昭和29年(1954年)3月31日

四日市史18巻近世通史編より

自然災害

災害は忘れたころに起きるといわれる。地震、津波、台風、竜巻、豪雨、土砂崩れ、大雪、火山噴火等思わぬことが起こる。

丁度70年前の昭和19年12月7日、山神祭が始まる少し前に大きな地震があった。いわゆる東南海地震が起きたのである。歩いている人は地面に這いつくばり揺れをしのいだ。神社の狛犬さんや墓石が倒れたし、各地で大きな被害がでた。いたるところで便所の溜めがあふれ臭気が広がった。山田では家屋の倒壊はほとんどなかったが、東海地方各地の被害の様子は戦時中のことでもあり伏せられた。それでも、高さを誇った石原産業社の煙突がおれ、倒壊したことが地震の大きさを物語っている。

160年前の1854年には安政の大地震があり、法源寺が倒壊し、安性寺の本堂も被害を受けた記録が残る。

鈴鹿山系では、ときには大雨があり、河川の氾濫、堤防決壊が起きている。

明治29年には内部川が氾濫、旧鹿間集落は被災、現在地に移住したと言われる。鎌谷川でも水車小屋が流されとの話が残っている。昭和49年には鎌谷川、足見川、天白川流域で大出水、氾濫の被害が起きた。



最近では、局地的な集中豪雨があるので、怠りなく用心が要る。このような災害や、火災に備えて消防団が組織され、活動している。

三鈴中学校

戦後の教育改革で新制中学校の小山田中学校が設立された。その後の協議で行政区画を越えた三重郡小山田村、と鈴鹿郡久間田村の組合立中学校として三鈴中学校が設立され、向山地区内、現太陽化学の敷地に建設された。



校章

昭和25年1月に校舎が完成、新校舎に移ったが、3年生は3ヶ月で卒業となった。新制中学3回生である。第1回生、2回生は小山田中学校の卒業となった。生徒は小山田小学校と久間田小学校卒業生の混成なので、なかなかなじみず、しばらくは別々の行動をとることが多かった。始業前、お昼休みには出身区域ごとでソフトボールをしたりしていたが、次第に一体化していった。

写真 発足時の先生方と校章 竹内雅彰氏提供

四日市市民

小山田村は昭和29年4月1日、四日市市に合併した。戦後最初の合併であった。村の経営は厳しくなっていたようで、滞納赤字300万円余あったが市に引き継がれた。当時の村長は戦後初めての新憲法下の選挙で選ばれた矢田佐太郎氏であった。選挙は激しい選挙戦が繰り広げられた。

明治22年(1889年)に発足した小山田村は、昭和29年(1954年)までの65年で村としての役割を終えた。

村役場は四日市市の小山田支所となり、職員も減った。そしてのちに出張所と名称を変え、地域の行政をになった。

住民に特別な変化はないが、村民から市民といわれるようになった。

このころから、四日市港を中心に企業進出がはじまり、次第に発展していく。



写真 永井厚美氏提供

山田の地名・呼称

山田には昔からよび慣れてきた「うぐいすだに」、「まとぼ」、「観音谷」、「どやま」、「やだびろ」等とちとちの呼称が多くある。これら地名に係る呼称のいわれが推察できる呼称もあるが、わからないものもある。また、吉田ヶ原、才山、大欠、佃、霜田、向山等の小字が25ヶ所あり、なじみが薄く場所がよく分からないところも多い。これ等の地名を「山田町の小字名地図・地名呼称」として別紙にまとめた。

文化財と記念碑

伝統、風習・歳時記

後篇に続く

- 添付資料・
- 1 山田町の歴史（年表）
 - 2 山田町字名地図
 - 3 山田の地名・呼称
 - 4 昭和25年頃の山田町商店・工場地図
 - 5 山田100年の写真集

参考資料

- 1 矢田監物のいた村・小山田の歴史及び付属の年表、歴史地図解説

平成18年7月 安性寺竹内宣秀住職

- 2・小山田小学校100年の歩み 100周年記念誌
- 3・広報おやまだ 昭和56年初号～平成25年号 ホームページより
- 4・三鈴中学校史・水沢中学校との合併にあたって 三鈴中学校 昭和51年3月31日
- 5・松應山 暁覚寺略史
- 6・加富神社 宮世話会議資料
- 7・小山田郷土読本 小山田尋常高等小学校編
- 8・小山田歴史年表 竹内 弘編
- 9・海軍生活 自叙伝 1933年～1946年 矢田新平
- 10・四日市史
第1巻 自然資料編
第5巻 民俗資料編
第14巻 近世資料編
第18巻 近世通史編等
- 11・菰野町史上巻
- 12・三重菰野 歴史こぼなし 第2集 菰野郷土資料館編
第4集
第5集等
- 13・三重県伊勢志摩資産家一覧表 大正3年4月編纂 興信倶楽部
- 14・西山事記
- 15・目で見る四日市の100年 四日市商工会議所 商工春秋別冊
- 16・目で見る四日市の100年 1990. 2. 12 名古屋郷土出版社
- 17・四日市今昔写真帖 郷土出版社 2002年
- 18・写真アルバム「四日市の昭和」 樹林舎 2011. 9. 13
- 19・鈴鹿の記憶・戦中戦後の証言と資料 鈴鹿市文化振興部文化課 2013. 3. 31
- 20・グランドゴルフと昭和の記憶 森 茂 2014. 9. 15
- 21・四郷 ふるさと史話 四郷地域社会づくり推進委員会 平成11年12月
- 22・うつべ・郷土史
23. 菰野町郷土資料館 資料No.1～29
- 24・菰野百夜話 こものがたり 心ふるさと「菰野」 三重県・菰野町2版 平成5年
- 25・俳句集 かやつり草舎 竹内 弘編 昭和53年
- 26・監物・小山田の歴史講演会資料 平成21年6月26日 安性寺住職 竹内宜秀

山田100年の記憶Ⅱ・昭和後期

平成27年6月吉日

新生活運動（生活改善）

昭和31年には小学校の給食が始まり、生徒は弁当を持って行かなくてもよくなった。パンに牛乳、惣菜が用意された。皆が同じ昼食を食べることになった。

昭和34年には簡易水道事業が始まり、各家に蛇口が付き水酌みの労働負荷が随分軽減された。水道管理設の工事にあたっては住民の出会い仕事で進められた。水源は、鎌谷川の傍らに井戸を掘り、安性寺の上の山のコンクリートタンクにポンプで汲み上げ各家庭に給水していた。

川からの取水、給水の維持管理には苦勞が。特に雨で、増水したときは大変であつた。

昭和30年に電気炊飯器が東芝から市販され、次第に普及していった。薪を炊いていたおくどさんは次第に使われなくなり、電気洗濯機の普及とあいまって家事労働が軽減された。新生活運動いわゆる生活改善運動もあり、台所が改造され、見慣れた竈の風景が消えて行った。

戦前、女性の家事は一般に1日、12時間ほどあつたようだが、1970年ごろには8時間弱になり、現在は電化製品がいろいろあり、生活スタイルがすっかりかわってきた。

ちょうど、このころ白黒テレビが普及し始めプロレスや高校野球が始まるとテレビの有る家庭に沢山の人が集まって見せていただいた。四日市高校が‘夏の甲子園 全国高校野球選手権大会’で優勝した時には大変な混みようだった。

山田にも乗り入れていたバスで、四日市や神戸^{かんべ}に出ることも多くなり、まちの生活がより近くなった。

山田町内のバスが通るカイトミチは、昭和32年には町民の協力により拡張された。屋敷を一部割譲していただくことでもあり、関係者による話し合いが根気よくもたれた。また、冠婚葬祭のつきあいについても話し合われ、簡素化が申し合わせられたりした。

農業の機械化

牛を飼って、牛の力を借りての農耕をおこなってきた米づくりであつたが、昭和30年代に入るところから、先ず耕運機が手始めに農業の機械化が次第に普及し始めた。

牛を養うための草刈は毎日の事でもあり、労働もさることながら、草刈り場の確保にも頭を悩ました。22~23万円もした高価な耕運機は、飼っていた牛（1頭14~15万円）を売って買い替えた。40年代に入ると、田植機（15~16万円）が急速に普及した。昭和46年ごろ河川改修が検討され、49年の水害復旧に合わせて改修工事が行われた。昭和39年に始まった三重用水事業も進み、山田でも後に利用できるようになった。

その後、昭和62年四日市南部土地改良区が設立され、耕地整理が実施され、河川改修、水利工事が合わせて行われた。

戦後、さつま芋が多くつくられたが、澱粉用に取扱った小山田農業協同組合が経営不振に陥り、地域の農業振興に問題がおきたりした。

山田の畑地は蕪、大根の栽培に適した土壌で多くの農家では蕪、大根を栽培した。秋の取入れ時には品評会が行われ、農家は競って出品した。等級がつけられ漬物用に出荷された。また、さつま芋に代わる作物として、収入の良いお茶の栽培がおこなわれるようになった。

高度成長期と社会の変化

塩浜の旧四日市海軍工廠跡地は順次払い下げられ、工場進出が続いた。

昭和32年1月にはモンサント化成が操業を開始し、三菱系の会社が次々と進出した。

他の主な会社でも、33年5月には昭和四日市石油が操業、35年4月には日本合成ゴム、36年4月には松下電工、38年4月には味の素と、次々と大手工場が進出して石油化学コンビナートが形成された。

新しく進出した工場は多くの雇用を生み、操業開始に合わせ社員の採用を増やした。

山田でも、農業をしながら工場建設に、あるいは工場従業員として、働きに出るようになった。いわゆる兼業化が進行していった。

池田内閣は昭和36年に国民所得倍増計画を発表して、経済成長路線を進めた。国民は将来に希望と夢を持ち一生懸命に働いた。

次第に所得が増え、生活は豊かに、子供の高等学校への進学率もあがっていった。

卒業すると都会や他地区に就職者も増えることになっていく。

昭和42年になると公害問題が起き、公害裁判がおこされ、「四日市ぜんそく」「公害都市・四日市」として四日市の名が日本全国知れ渡るようになった。

このころ、山田でも風向きによっては嫌なにおいが感じられることが時々あった。

団地の開発

昭和36年には小林町に高花平住宅団地造成工事が着工され、38年には高花平小学校が開校され、アパートへの入居が進んだ。三重県で、最初にできた住宅団地である。

日本経済の発展と共に、燃料が石炭から石油への燃料転換にともなって起きた炭鉱離職者対策という側面から、コンビナート従業員への住宅供給がはかられたのである。

この事業を企画し、責任者として推進されたのは元村長の矢田佐太郎氏だったようだ。

昭和39年には笹川団地の造成が始まった。

三鈴中学校が昭和51年3月に廃校となり、西陵中学校に統合された。後に、跡地を中心に南部工業団地が造成された。

関係者による誘致活動により、太陽化学社の進出が決まり、昭和63年には南部工場の建設が始まった。

日本列島改造論に触発され、日本各地にゴルフ場が開設された。内山町地内でもゴルフ場が造成され、昭和63年に開場した。山田においても大手ゼネコンによるゴルフ場用地買収の動きがあったが、バブル経済が破裂するという、経済環境のおおきな変化もあり実現には至らなかった。

三鈴中学校の廃校

前編にて設立時のことについて述べているごとく、当初は小山田村と久間田村の組合立中学校として発足したが、村の合併、行政区域変更から四日市市久間田村組合立、四日市市三鈴村組合立と変遷を経て、昭和32年4月15日四日市市立三鈴中学校となった。開校以来昭和51年3月の廃校までに3790名の卒業生を世に送り出した。年度別にみると昭和37年度卒業生200名が最多で、以後減少して昭和50年度卒業生は63名であった。児童の減少と、鈴鹿市の委託生徒が、昭和47年からは入学しなくなったことも大きく影響した。



廃校後40年近い歳月が流れ、在りし日の学び舎、中学生時代がなつかしく、平成26年8月に三鈴中学校記念碑建立実行委員会が設立され、記念碑建立準備が進められている。

正門より玄関を望む・29年3月卒同窓会資料

西陵中学校の創設

三鈴中学校の廃校を受けて、西陵中学校が西山町地内に昭和51年4月、創設された。近年の生徒減少を受けて検討された対応策として、近隣の水沢中学校との統合という形での創設であった。新学制発足時にも、小山田村、水沢村の間でも検討協議されたようである。通学距離が遠くなる地区があるが、鈴鹿の山が近く、自然豊かな所である。この一帯は、江戸時代に開発され、山田から入植したと伝わる平野新田（西山町の小字）の地内にあたる。校門横には、戦前の小山田小学校にあったような、少し小ぶりの二宮尊徳像が建立されている。この西陵中学校はすでに、40年に及ぶ歴史を刻んで、多くの卒業生を送り出している。

青山里会老人ホームの開設



貴重な縁があつて、昭和48年には自然あふれる素朴な山里である山田町地内に社会福祉法人青山里会が設立された。そして、翌年には小山田特別養護老人ホームが開設され、以後、先進的な取り組みと施設の充実がはかられ、昭和61年には小山田記念温泉病院開設へと発展し、今日に及んでいる。お蔭で、われわれ町の住民はいろいろと恩恵をうけている。

写真・青山里会遠景 竹内雅彰氏撮影

昭和から平成の時代へ

昭和64年1月、昭和天皇が崩御し、昭和の時代が終わった。経済不況から戦争へと進み、山田町内でも72名もの戦病死者をだした、暗く不幸な戦前の昭和前期をへて、国土復興を果たし、高度成長期を歩んできたのが、戦後の昭和であった。

生活はアメリカナイズされた面もあるが、豊かになった。一時期、余裕もなく忘れていた昔からの伝統文化も次第によみがえり、復活を取り戻している。

西暦1989年1月8日、改元され平成の時代が幕開けした。

山田では、遅ればせながら、昭和62年2月に南部土地改良区が設立され、耕作地整理事業を進め、対象区域を順次拡大していったが、平成時代のおおきな事業となった。

バブル経済に沸いた昭和から、平成の時代に入って、バブル崩壊後の経済停滞、デフレ状況が長く続いてきた。米の需要が減少、加えて米価が下落、米農家にとって厳しい状況である。

当地は四日市市の中でも、昔ながらの自然が比較的多く残っているが、農村の風土は次第に、少しずつ変化がおきている。

言い伝え

室町時代の16世紀半ば、12代将軍足利義晴の重臣従者だった矢田監物が、将軍没後山田の地に来てこの地を治めたという監物伝説については竹内宜秀氏著「矢田監物のいた村・小山田の歴史」、「監物」に詳しく纏められているので参照ください。

このほかにも荒神山の抗争伝説、姫切り伝説等、小山田の伝説についても記載されている。

現在のように天気予報がなかった時代における気象については、体験に基づいた言い伝えがある。農家には大事なことで、何度も体験し積み重ねてきた生活の知恵が生きている。

- たとえば
- 「野登山に雨雲がかかると必ず雨になる」、「野登の雷は恐ろしい」
 - 「冬の強い西風をユキオコシというが、風が止むと雪が降る」
 - 「汽笛が聞こえる日の翌日は雨が降る」
 - 「つばめが低く飛ぶと雨になる」

山田の文化財、記念碑、建造物

昔から住民が守ってきた観音堂、釈迦堂の御本尊は平成16年8月19日、四日市市指定有形文化財に指定された。自治会を中心に観音堂、釈迦堂保存会が設立されており、大切に守られている。山田町内には江戸時代に建立された暁覚寺本堂、安性寺本堂をはじめ歴史のある建造物や記念碑がある。主な建造物や、記念碑を別紙にまとめている。

このほかにも昔ながらの貴重な古民家が青山里会の地に移設され、日本庭園のある大欠荘として利用されている。秋の温泉祭りにはお休み処として、住民にも開放されている。また、明治、大正時代に建築された家屋は少なくなってきたが、まだまだ現存する。

山田に於ける歳時記

昔から伝わる伝統、習慣、風習にはいろんなことがある。八幡さんのお灯明は今も守られ続けられている。灯明箱が次々家々を回され、お灯明が続いて行くのである。

日照りが続き、田んぼの水が枯れるようなときは雨乞い神事をして降雨を祈ったということも記憶に残っている。



五穀豊穰、安寧を祈念するみくわ祭りの獅子舞が江戸の時代から延々と続いてきているごとく、いろいろな行事は、神社や寺院の祭礼、法会を中心に続いている。今も続く、これら田舎くらしの営みを歳時記として別紙に纏めてみた。

風習や方言もあわせて別紙にまとめている。

写真・みくわ祭り獅子舞 厄年宅 竹内雅彰氏撮影

添付資料・1 山田の文化財、記念碑、建造物

2 山田に於ける歳時記

3 山田の伝統と、習慣、風習

4 山田の言葉

山田町の概要

・位置 山田町の緯度経度 東経136° 32' 北緯34° 56'

・面積/広がり 約5km² (小山田地区:18.83km²) 東西 約4km 南北 約3km

・戸数/人口

	平成27年	昭和55年	増減
山田・戸数	714	445	269
山田・男	702	875	-173
山田・女	853	1,062	-209
山田人口・計	1,555	1,937	-382
小山田・戸数	1,898	1,235	663
小山田・男	2,194	2,572	-378
小山田・女	2,431	2,857	-426
小山田人口・計	4,625	5,429	-804

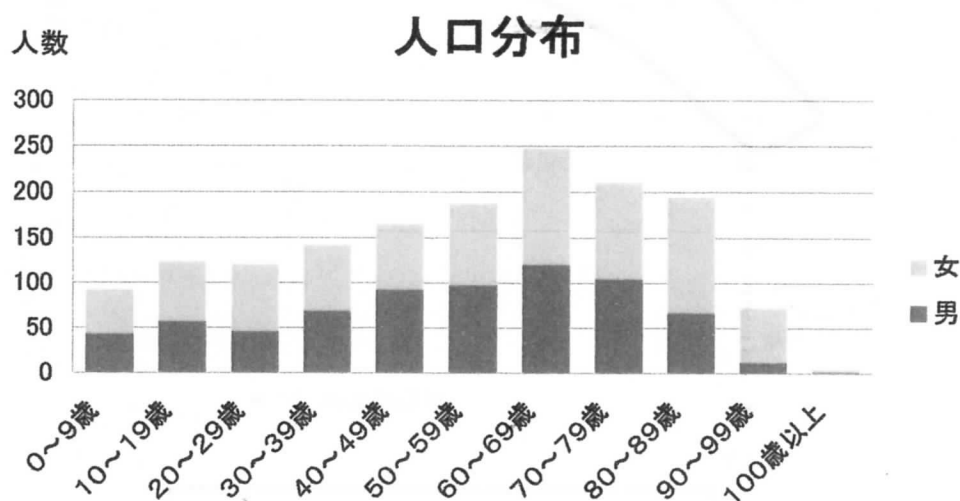
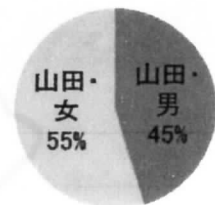
※ 平成27年7月時点
青山里会さんを含む

・年齢別人口

※山田のみ

年代	男	女	計
0～9歳	42	50	92
10～19歳	56	67	123
20～29歳	45	75	120
30～39歳	68	73	141
40～49歳	92	73	165
50～59歳	97	90	187
60～69歳	120	127	247
70～79歳	104	106	210
80～89歳	66	128	194
90～99歳	11	61	72
100歳以上	1	3	4
計	702	853	1,555

山田男女比率

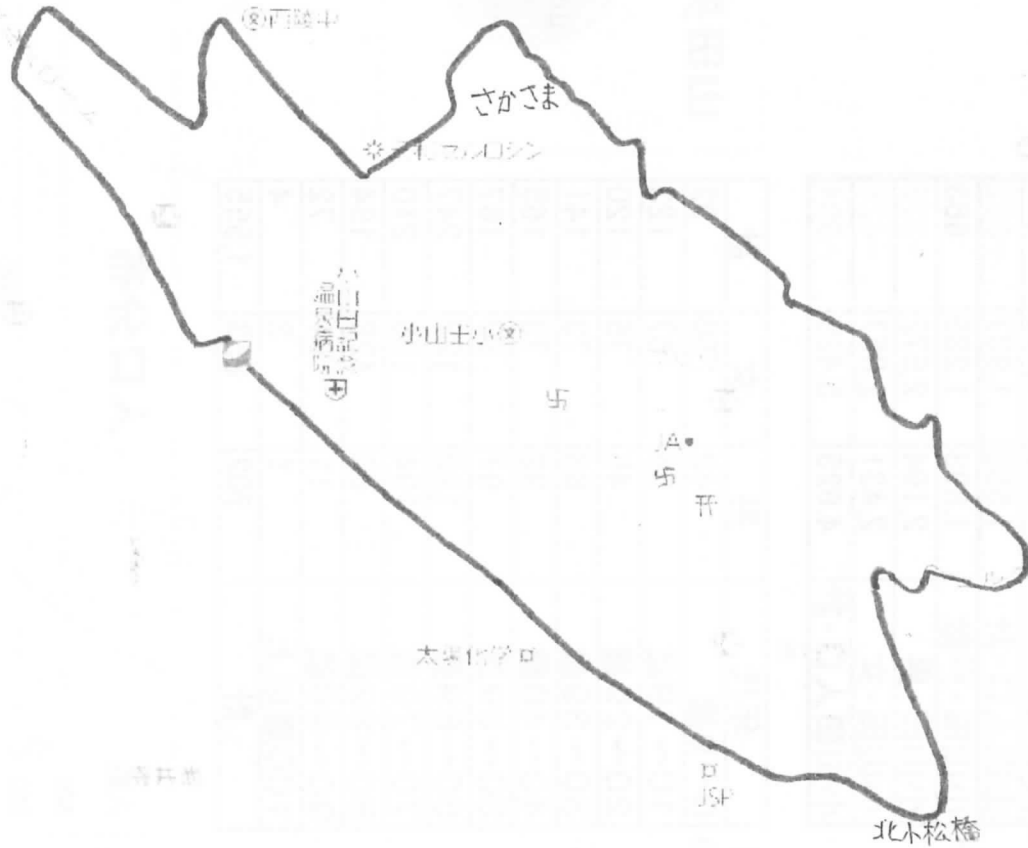


・海拔

低い所 (JAライスセンター) 25m
高い所 (小山田郵便局西) 109m

山田町の範囲図

18



(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN

マップコード: [101001](#) 38 363 889*66 緯度経度: 北緯34度56分40.76秒 東経136度31分38.92秒

こあざ
山田町小字名地図



- 瓢箪池 小学校の北、才山にある。昔、灌漑用に造られたと思われる。
- うぐいす谷 瓢箪池のある谷間で、うぐいすが沢山鳴き群れたのだろうか。
- 二つ池 小林町への道際にあり、昔は灌漑用に利用されたと思われる。
- くろみ 老人ホーム下の黒見橋付近の鎌足川右岸をいう。
- かもけ 老人ホーム東側の鎌足川の左岸一帯をいう。「姫切伝説」のあるところで、別名姫切とも呼ぶ。昔は鴨のいる池があったのか。
- たけだに 鎌足川の向山橋上の深みがあったところで、夏には子供が泳いで遊んだ。
- もうちゅう 足見川に架かる内山道の橋上流に深みがあり、子供の泳ぎ場になった。飛び込めるほど深く、青く澄んだ静かな流れがあった。
- ふるかいと (旧垣内) 昔、人が居住したところをふるかいと言った。
- 本郷 江戸時代、山田（吉田ヶ原）の地を西山、内山と区別して山田村本郷と呼称した。
- かわら 吉田ヶ原の集落で鎌足川がわ、つくだゆがとおるところをかわらと呼称した。
- きたかわら 足見川沿いの小字大川原あたりをきたかわらと呼称した。
- かいとゆ 鎌足川のかもけ地内から引いたゆすいで山田の街中を流れる。
- つくだゆ 鎌足川の向山橋の上流から引いたゆすいでかわらを通り佃にながれる。
- 万松寺山 矢田監物が建立した長谷山万松院（御本尊は現在の観音さん）があった跡を万松寺山と呼び、伝えられている。足見川右岸の中尾山地内にあたる。

山田の地名・呼称

- 八幡さん 矢田監物が城（山田城）を築き、八幡社を造営したと伝わる。明治時代に加富神社に合祀された。今も常夜灯が守られている。昔、小學校生の記念写真を毎年撮った。
- 西の宮 小山田記念温泉病院の東、野田の谷地内の森にあったが八幡社同様加富神社に合祀されている。いまも参道がこのころがこの里山を西の宮と呼んでいる。
- 山の神 西墓地の東旧内山道の坂を下ったところの大畑地内に、山神の祠があったが戦後加富神社に合祀されている。いまも参道、祠跡がこのころ。この里山一帯を山の神と呼んでいる。
- 加富の森 加富神社昔の鎮座地であったと伝わる。現加富神社の南方鎌谷川右岸の森で、法源寺移設前にあった区域でもある。その昔一帯の森を神森（かふもり）とも呼び祀ったともいう。別名、どやま。
- まとば（的場） 八幡さんの北側、平坦なところで弓矢の訓練場であったところからの的場と呼ばれたと考えられる。
- 矢田びろ 監物の時代、戦に臨み、出陣のため家来共々集まった広場であったのだろうか。加富神社南東にあった広場を矢田びろと伝わる。
- 観音谷 監物没後家来の平尾某が観音堂を建て、長谷山万松院の御本尊（十一面観音像）、および地藏像を移し祀ったことに由来するところ。
- 愛宕山 昔、八幡山から岡山に続く小高い山があった。現在の農協一帯で、山上に枯れることがない小さな池があったという。「夜泣き井戸」伝説の伝わるころ。場所は変わっているが今も祠があり、守られている。
- 岡山 今は茶畑が広がるが、小高い丘が農協の東側に続いていた。昔、暁覚寺前身の寺院があったという。
- ぶんぶく山 岡山から続く小高い禿山で、小學校低学年生の遠足地であった。現在はミルク道路用地等にもなり、いまは面影がない。
- どやま お堂があったところから堂山と親しんだ。

旧垣内	フルカイト	昔、人が居住したところをふるかいと言った。
ぶんぶく山		岡山から続く小高い禿山（津田学園のグラウンドが在る所）で、小学校低学年生の遠足地であった。 現在はミルク道路用地等にもなり、いまは面影がない
本郷	ホンゴウ	江戸時代、山田（吉田ヶ原）の地を西山、内山と区別して山田村本郷と呼称した。
的場	マトバ	八幡さんの北側、平坦なところで弓矢の訓練場であったところからの的場と呼ばれたと考えられる。
宮蔵田	ミヤゾウダ	加富神社および内外両宮に稲を奉納するための田を言い、小字の宮蔵の地がこれに当たるのだろう。
もうちゅう		足見川に架かる内山道の橋上流に深みがあり、子供の泳ぎ場になった。飛び込めるほど深く、青く澄んだ静かな流れがあった。
矢田びろ	ヤダビロ	監物の時代、戦に臨み出陣のため家来共々集まった広場であったのだろうか。加富神社（東宮）近くにあった広場を“矢田びろ”と伝わる。大玄地内にあたる。
山の神	ヤマノカミ	大畑地内、西墓地の北東旧内山道沿いに祭られていたが戦後加富神社に合祀されてる。いまも参道が残る。この里山一帯を山の神と呼んでいる。
やもけ		足見川下流、湾曲部の深みを“やもけ（矢向）”と呼び、泳ぎ場として遊んだ。 霜田地内にあたる


さかさま		足見川の上流、西尾山地内の逆S字型に逆流している箇所。流水の浸食で出来た河川部位である。
笹原池	ササハライケ	内山道の東側にある灌漑用に使われた池で、自治会保有地である。
さやま		才山のあたりをさやまと呼んだ。昔の斎山からきたのだろうか。
三昧	サンマイ	三昧場のことで、墓地のことをさんまいとも言っている。本来の三昧は安定して、静かなところを言うようである。
しゃかでん		どやまの東一帯の田で、釈迦堂に奉納するための供養田だったところ。
たけだに		鎌谷川の向山橋上の深みがあったところで、夏には子供が泳いで遊んだ。
たにぐち		“宮蔵谷”から足見川への流入部をたにぐち（谷口）と呼んだ。
佃	ツクダ	加富神社の南東にある田園地帯を言う。国司あるいは領主に年貢を納めるための田を言った。
つくだゆ		鎌谷川の向山橋の上流から引いた“ゆ”でかわらを通り佃に流れる。
堂山	ドヤマ	お堂（釈迦堂）があったところから堂山と親しんだ。
西の宮	ニシノミヤ	小山田記念温泉病院の東、野田の谷地内の森にあったが八幡社同様加富神社に合祀されている。いまでも参道がのこるがこの里山を西の宮と呼んでいる。
八幡さん	ハチマンサン	矢田監物が城（山田城）を築き、八幡社を造営したと伝わる。明治時代に加富神社に合祀された。今も常夜灯が守られている。昔、小学生的の記念写真を毎年撮った。
万松寺山	バンショウジヤマ	矢田監物が建立した長谷山万松院（御本尊は現在の観音さん）があった跡を万松寺山と呼び、伝えられている。足見川右岸の中尾山地内にあたる。
瓢箪池	ヒョウタンイケ	小学校の北西、才山にある。昔、灌漑用に造られたと思われる。
二つ池	フタツイケ	小林町への道際にあり、昔は灌漑用に利用されたと思われる。現在は、池は1つ残っている。

山田の地名、呼称

地 名		言 わ れ
愛宕山	アタゴヤマ	昔、八幡山から岡山に続く小高い山があった。現在の農協一帯で、山上に枯れることがない小さな池があったという。「夜泣き井戸」伝説の伝わる場所。場所は変わっているが今も祠があり、守られている。
うぐいす谷		瓢箪池のある谷間で、うぐいすが沢山鳴き群れたのだろうか。
岡山	オカヤマ	今は茶畑が広がるが、小高い丘が農協の東側に続いていた。昔、暁覚寺前身の寺院があったと言う。
かいとゆ		鎌谷川のかもけ地内から引いた“ゆ（田畑に引いた、用水路）”で、山田の街中を流れる
加富の森 （どやま）	カフノモリ	加富神社昔の鎮座地で東の宮と呼ばれていたと伝わる。現加富神社の南方鎌谷川右岸の森で、法源寺移設前にあった区域でもある。その昔一帯の森を神森（かふもり）とも呼び祀ったともいう。別名、“どやま”の地に当たる。
かもけ		老人ホーム東側の鎌谷川の左岸一帯をいう。「姫切伝説」のあるところで、別名姫切とも呼ぶ。昔は鴨のいる池があったのか。
川原	カワラ	吉田ヶ原の集落で鎌谷川、つくだゆが通るところをかわらと呼称した
観音谷	カンノンダニ	八幡山の北側から東の方、高若センターの方にのびる谷を言う。監物没後家来の平尾某が観音堂を建て、長谷山万松院の御本尊（十一面観音像）、および地藏像を移し祀ったことに由来する。
北川原	キタガワラ	足見川沿いの小字大川原あたりをきたがわらと呼称した
黒見	クロミ	老人ホーム下の黒見橋付近の鎌谷川右岸をいう

山田の文化財、記念碑、建造物

平成27年5月31日

NO.	記念碑・建造物	説 明	備 考
①	安性寺観音堂御本尊の11面観音菩薩立像	平安後期のもの。矢田監物造立と伝わる長谷山万松寺由来で、法源寺廃寺後安性寺に移され自治会にて守られている。	共に、「四日市市指定有形文化財」に平成16年8月19日指定。
②	暁覺寺釈迦堂御本尊の釈迦如来座像	鎌倉中期のもの。法源寺廃寺後暁覺寺に移され観音堂同様に自治会にて守られている。	
③	加富神社・八幡神社	“延喜式内正一位加富神社”で四日市に於いてもかなり古くから在る神社。	平安時代の伊勢神宮の「延喜式神社名簿」に記載されている、旧三重郡に6座しか無い延喜式内社の1つ。
④	加富神社拝殿	大正15年4月に山田の名宮大工、矢田三治郎氏により再建された。	
⑤	加富神社縁起碑 	延喜式内加富神社の略記を表す碑が建立され、拝殿横に建つ。	

⑥	加富神社正一位碑 	正徳3年(1713年)中御門天皇より正一位加富大明神の神位を宣下された記念碑が表参道の鳥居の横に建つ。	
⑦	八幡神社旧跡碑 	八幡神社は明治41年4月、金毘羅社、稲荷社と共に加富神社に合祀されたと記した碑が昭和7年3月に建立とある。	
⑧	常夜燈 	八幡神社に明治29年奉納された常夜燈が参道を登った広場に在る。今も燈明の奉納が続けられ、守られている。	
⑨	表忠碑 	西南戦争から日清、日露戦争での戦病死者を慰霊して、大正10年3月10日に小山田小学校校門横に建立された。太平洋戦争終戦後、加富神社拝殿横に移築され、太平洋戦争の戦病死者名が刻銘された。	山田にて72名の方が、戦病死で亡くなられている

⑩	小山田美術館 	明治43年に旧校舎の一部を移築して村役場として使っていたが、昭和17年に改築された。以来、役場、支所、出張所として使われてきたが、市民センターが移転した後、この建物を青山里会が譲り受け小山田美術館として利用されている。	
⑪	記念会館 	小山田美術館横の記念会館は四日市港近くの小菅剣之助氏自宅別邸として建てられた建物です。昭和57年の「御下賜金拝受」を記念に小菅氏より寄贈され、移築された日本家屋で、秋の温泉祭りには茶室として開放される。	小山田美術館の東側建物
⑫	小山田村道路元標 	大正8年11月4日道路法施行令第9条に道路元標は各市町村に1個を置くと定められた。旧役場（現小山田美術館）入口に立つ、旧小山田村の道路元標である。	
⑬	安性寺本堂	安性寺の本堂は、文化5年（1808年）再建されたが安政元年（西暦1854年）の安政大地震で傾倒し、宮大工・藤造により改修された。	藤造の祖父、田中長三郎は山田の名工で藩主から城下に呼び寄せられた。安性寺の門徒であった。

⑭	安性寺鐘楼	明治15年に梵鐘を再鑄造し、明治22年に現在の鐘楼をを建立した。建立は大工矢田三治郎によるものである。昭和59年には大修理が行われた。記念碑「暢発和雅音」が建てられている	
⑮	暁覺寺	享和4年（西暦1804年）七間四面の、現本堂が落成した。	
⑯	暁覺寺鐘楼	宝暦11年（1761年）、鐘楼が落成した。平成11年に現鐘楼が再建された。	
⑰	高若センター	平成3年度新農業構造改善事業の一環として建設された建物で、地区住民老いも若きもみんなの交流に利用されている。	正式名称は“高齢者・若者センター”
⑱	三鈴中学校記念碑	現在建立について検討中	三鈴中学校は、現在“太陽化学(株)南部工場”が在る所に建っていた。

※ 添付写真は、竹内雅彰氏撮影

山田町に於ける“歳時記”

ひだまり語る会

平成27年5月10日記

時期	名称	内容	主催
1月	ドンド	神社にて篝火を焚き各戸から集まった門松・しめ縄等、神事で使った物を祈祷後燃やす。また、古くなったお人形等も燃やす。	神社
	報恩講・女人講	浄土真宗では開祖親鸞聖人の忌日に報恩のために法会を行っている。安性寺では1月6, 7日に、暁覺寺では1月14, 15日に報恩講が催行されている。昔から多くの寺で朝事の折大根炊きをしている。石山本願寺の戦いのおり、信者が大根を持ち寄り、うえをしのいだ故事にちなんでおこなってきたという。安性寺の女人講では干し大根入りのおつゆをつくっている。	安性寺 暁覺寺
	凧揚げ・竹馬	今はあまり見られなくなったが、買って来たり自分で作った凧を揚げたり、自分で作ったり親に作ってもらった竹馬でよく遊んだ。	
2月	節分祭	神社にて、厄年・還暦を迎えた人達による御餅・お菓子播きが行われる。	神社
	観音さん	御堂（11面観音菩薩立像）が年1回開扉され、2月17日、18日に安性寺境内の観音堂で観音さんの供養が行われる。	自治会 安性寺
3月	祈年祭（みくわ）	3月9日のみくわ（御鋤）祭りには 五穀豊穰、家内安全を祈り、六名の獅子舞（宝暦2年西暦1752年吉宗の時代に始まる六名須賀神社 獅子神楽舞・10種の舞に由来する）を奉納する。また、初老厄年、後厄年のものはそれぞれ代表のいえて厄払いの獅子舞を行う。振る舞いの菓子撒きが行われる。古くからおこなわれている。	神社

	稲荷祭（初午）	山田に点在する“お稲荷さん”のお祭りで、神社にて奉納されたお菓子等が参拝者に配られる。山田では、例年3月20日に行われる。	
	お釈迦さん	御本尊（釈迦如来坐像）が開扉され、3月14日、15日に暁覺寺境内の法源閣にてお釈迦さん供養が行われる。	自治会 暁覺寺
	川ざらえ	全戸の出合いで街中の用水路を掃除する。水は田の用水として使用されます。	自治会
4月	花見の会 （桜・菜の花・蓮華の花）	高若センターで行われ、“鳥飯”などがふるまわれる。 ※・桜の大木：市民センター、小山田美術館、安性寺 ・蓮華：休耕地に植えられるために広範囲で花が咲く ・菜の花：昔は“菜種”を沢山栽培したので綺麗であった	慶寿会
	土肥祭・慰霊祭	15日に、今年の農産物の豊作を祈念するお祭り。 また、小山田地区の戦没者の慰霊祭を行っている。	神社
	花祭り	昭和20年代頃まで張り子の白象を東西の寺から寺へみんなで引いて歩いた。皆で、お釈迦さんに“甘茶”をかけた	安性寺 暁覺寺
5月	田植	今は機械化されたが、昔は手で苗取りをして1株ずつ植えており大変きつい仕事であった。また、田も耕地整理がされておらず狭隘で引水に苦労した。	
6月	野上り	農家では農繁期が終わり、野上り餅と称して“がんたち“の葉でくるんだ蒸し餅を作って食べた。また、“ぼた餅“（もち米を蒸して餡子でくるんだ）を作って食べた。	
7月	天王祭	7月14日は山田の夏祭りで、神社に於いて夜を徹して老若男女が踊った。音頭取りの“江州音頭”に合わせて踊った。また、小学生の子供たちが沿道に灯される行燈の絵を描いてくれる。	神社
	ホタル	今は、少なくなったが昭和30年代までは大量のホタルが飛び交った。よく蚊帳に放って楽しんだ。	

8月	お盆	お盆には先祖供養の行事が行われる。 小山田記念温泉病院では青山里会主催の盆踊りが行われる。	
	道づくり	古くから、全戸が出て町内の道の草を刈り取る。その後、組によっては“鳥飯”を炊いて食べる。昔は各戸で鶏を飼っており、この鶏をとり飯にして皆で食べた。	自治会
9月	米の収穫	収穫も機械化されたが、昔は手で刈取り“はさ掛け（竹で組んだ竿に掛けて稲を乾燥）”し、脱穀も足踏み脱穀機で行っていた。	
10月	例大祭（秋祭り）	御神輿（大人用と子供用）を担ぎ、神社から“青山里会”までを往復する。神社では“鳥飯”が振るまわれる。昔は神社で青年団が相撲を取った。	神社
	地区運動会	農繁期の終わったところに、小山田小学校の校庭で住民の交流を目的に行われる。	自治会
11月	地区文化祭	各サークル、各人が持ち寄った作品を展示する。同時にバザーも開かれる。 また、子供会による小山田地区1周駅伝競走が行われる。	自治会 子供会
	温泉まつり	青山里会主催で温泉祭りが催行される。屋台が出て、いろんなイベントが行われる。 慶寿会では竹とんぼづくりに協賛している。	
12月	新嘗祭（山の神）	12月7日は“山の神”と言って、やまの神々に1年間の作物の収穫を感謝するお祭り。	神社
	神宮大麻頒布 （御札くばり）	昔、車がない時代なかなか行けないので、代表してお札を受けてきてもらった名である。新しく伊勢神宮と加富神社のお札を各家庭の神棚に頒布されるとともに、お祓いを受ける。	神社
	しめ縄・門松作り	新年を迎える準備として、神殿・拝殿・鳥居・神木の“しめ縄”と表参道・裏参道の“門松”を作る。材料となる稲わら・竹・松等は山田町産である。	慶寿会
	年越し・正月準備	大晦日にお寺では除夜の鐘をつく。全てが、新春に供える。	安性寺 暁覺寺

不定期に行われる山田の伝統と 習慣、風習

名 称	内 容	主催
なつけ、お宮参り	子供が生まれ、7日目に名前が決まるとしんせきを呼んでお披露をした。30日または100日目にお宮参りをして健やかな成長をお祈りする。	
初節句	生まれた男の子が初めて迎える5月5日の端午の節句にはしょうぶ湯をつかい、鯉のぼりを揚げて、健やかな成長を祈り、祝う。 女の子が初めて迎える3月3日のひな祭りに、お雛さんを飾り健やかな成長を祈り、お祝いをする。	
お灯明	八幡さんのお灯明を町内各戸順番にお灯明箱を回し、灯す。	
よばれ	祝い、法事には親戚を呼んで、御馳走をふるまう。御馳走になることをおよばれといった。	
野辺おくり	大谷葬祭場ができるまでは、死者をさんまいの焼き場で同行・親戚で火葬していたので、自宅からさんまいまで役割を決め、葬列し、おくった。	

山田の伝統と 習慣、風習

平成27年3月吉日

- 報恩講と大根炊き 浄土真宗では開祖親鸞聖人の忌日に報恩のために法会を行っている。安性寺では1月6,7日に、暁覚寺では1月14,15日に報恩講が催行されている。昔から多くの寺で朝事の折大根炊きをしている。石山本願寺の戦いのおり、信者が大根を持ち寄り、うえをしのいだ故事にちなんでおこなってきたという。安性寺の女人講では干し大根入りのおつゆをつくっている。
- どんと 加富神社境内において篝火を焚き、お祓いをしたのち正月のお飾りを燃やす。昔は7日に行われたが、近年成人式の日に行われる。
- 節分 加富神社では、節分に氏子厄年の皆さんによる豆まき神事がおこなわれる。
- お彼岸とくさもち
みくわと獅子舞 お彼岸にはお寺で先祖供養の法会（永代経）が催行され、ご先祖さんに、草餅、ぼたもち等のお供えをする。3月9日のみくわ（御鋤）祭りには 五穀豊穡、家内安全を祈り、六名の獅子舞（宝暦2年西暦1752年吉宗の時代に始まる六名須賀神社 獅子神楽舞・10種の舞に由来する）を奉納する。また、初老厄年、後厄年のものはそれぞれ代表のいえで厄払いの獅子舞を行う。振る舞いの菓子撒きが行われる。自治会により、高若センターでも獅子舞が行われる。
- 初午 3月の初の午の日（例年、20日）にお稲荷祭がおこなわれる。
- 花祭り 御釈迦さんの誕生日を祝って、4月8日に象を曳いて花祭りが盛大に行われた。暁覚寺では今も行われている。
- なつけ、お宮参り 子供が生まれ、7日目に名前が決まるとしんせきを呼んでお披露をした。30日または100日目にお宮参りをして健やかな成長をお祈りする。
- 初節句 生まれた男の子が初めて迎える5月5日の端午の節句にはしょうぶ湯

つかい、鯉のぼりを揚げて、健やかな成長を祈り、祝う。女の子が初めて迎える3月3日のひな祭りに、お雛さんを飾り健やかな成長を祈り、お祝いをする。

野上がりといばらもち 田植が終わると野上がりと言っていばら餅をつくり、農作業の慰労をした。

お盆 お盆には先祖供養の行事がおこなわれる。

秋祭りとおみこし 加富神社の例大祭、昔は10月10日に行われていたが、近年は10月の第一日曜日に催行される。平成の時代になって子供神輿ができ御練が行われる。昔は相撲が奉納された。

やまのかみ祭り 加富神社では12月7日に山の神に作物をお供えして豊作の感謝をする。新嘗祭である。

おふだくばり 昔、車がない時代なかなか行けないので、代表してお札を受けてきもらった。お伊勢さん、田村さん、お多賀さん。

お灯明 八幡さんのお灯明を町内各戸順番にお灯明箱を回し、灯す。

よばれ 祝い、法事には親戚を呼んで、御馳走をふるまう。御馳走になることをおよばれといった。

よりあい 昔、組の寄り合いを頻繁に行い、合議制で決めごとをした。

自治会組長会が定期的に行われる。各組では出会いのあとよりあい、食事をしたりする。昔はよく、とり飯を炊いた。

かわざらえ 春3月、用水路の土砂さらえをして田植の準備をする。

いけざらえ 灌漑用に溜池を使っていたころ、池底をさらえ掃除をした。

その折には魚がたくさん取れた。

みちづくり 秋の取入れ前に（現在では8月下旬）町内農道の草刈、補修を共同で行う。昔は作業のあと、とり飯をよく炊いた。

であい 関係者がでて共同作業をおこなう。最近では自然を守る会が出来、中心になってやっけていただいている。

念佛講 浄土真宗では信者があつまり、御教えを学び、和讃、

- 念佛をとなえ、こころの安らぎを得る。
- 野辺おくり 大谷葬祭場ができるまでは、さんまいの焼き場で火葬していたので、自宅からさんまいまで役割を決め、葬列し、おくった。
- きんちゃく袋 お嫁入りの道具の一つとして必ず持たせた。お供えのお米入れ等、用足しに用いた。
- 里がえり お嫁入り後、初めて実家へ行くことを里がえりといった。
- ののぼり登山 昔、小学校では高学年になると、鍛錬のため歩いて野登山にのぼり、おまいりをした。
- 温泉祭り 青山里会主催で11月上旬に温泉祭りの行事が催行される。
昨年、平成26年11月の温泉祭りは40周年記念として開かれた。
- 温泉盆踊り 青山里会主催で、小山田記念温泉病院駐車場において施設入居者、関係者を中心に、盆踊りが行われる。最後に、物故者供養の花火が打ち上げられる。

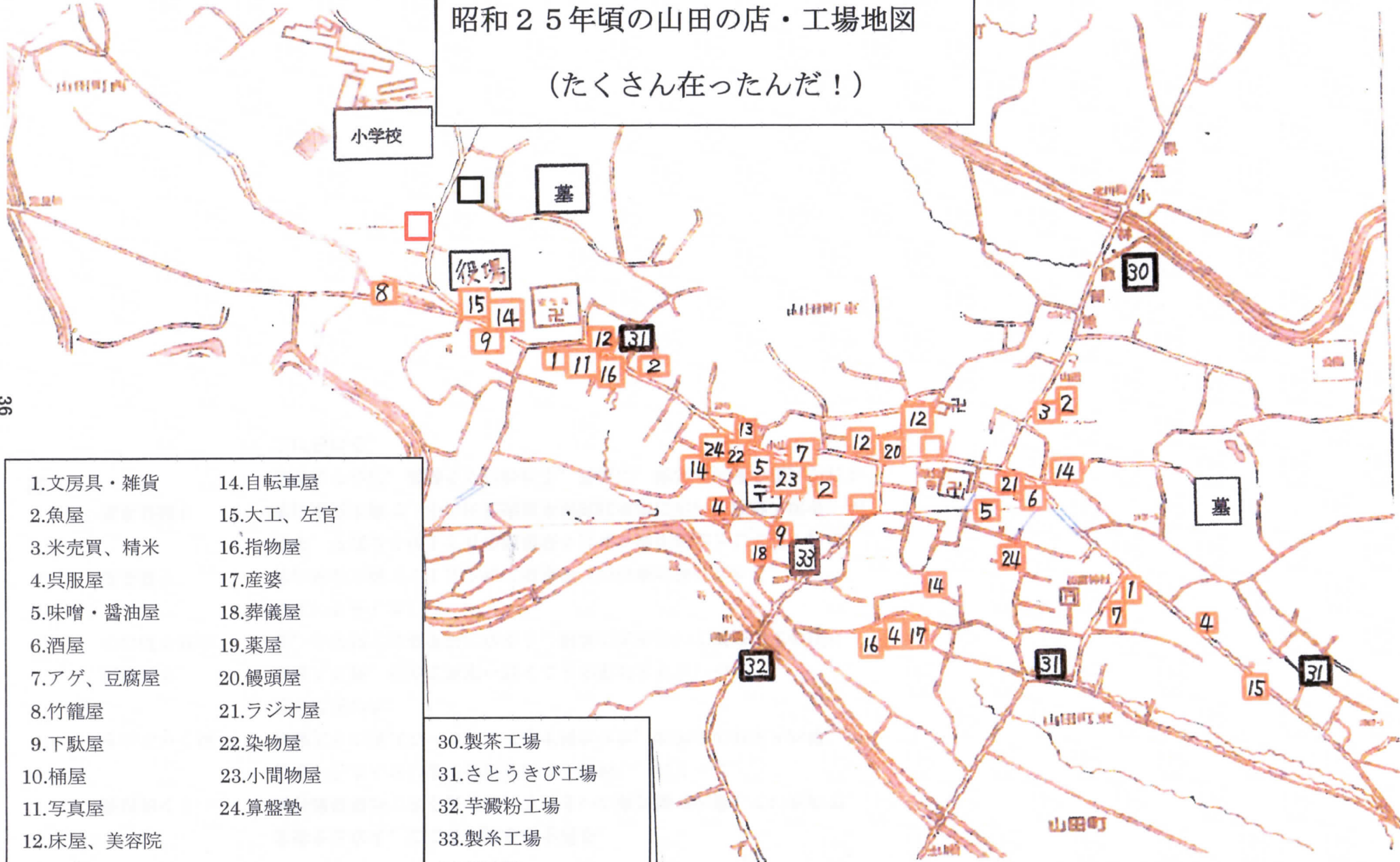
昭和25年頃の山田の店・工場地図

(たくさん在ったんだ！)

36

- | | |
|-----------|----------|
| 1.文房具・雑貨 | 14.自転車屋 |
| 2.魚屋 | 15.大工、左官 |
| 3.米売買、精米 | 16.指物屋 |
| 4.呉服屋 | 17.産婆 |
| 5.味噌・醤油屋 | 18.葬儀屋 |
| 6.酒屋 | 19.薬屋 |
| 7.アゲ、豆腐屋 | 20.饅頭屋 |
| 8.竹籠屋 | 21.ラジオ屋 |
| 9.下駄屋 | 22.染物屋 |
| 10.桶屋 | 23.小間物屋 |
| 11.写真屋 | 24.算盤塾 |
| 12.床屋、美容院 | |
| 13.医者 | |

- | |
|------------|
| 30.製茶工場 |
| 31.さとうきび工場 |
| 32.芋澱粉工場 |
| 33.製糸工場 |
| 34.鍛冶屋 |



山田の歴史（年表）

ひだまり語る会

平成27年5月10日記

時 期	出 来 事	備 考	
旧石器時代	山田町や美里町で小規模な集団生活が営まれる 宮蔵遺跡（山田町）、美里小割遺跡（美里町）		
縄文時代	中尾山遺跡	山田町 足見川の上流	
弥生時代	吉田ヶ原に人が住み着く	足見川の流域を葦見田（あしみた）と称した	
古墳時代	和田ヶ平古墳群	山田町の西方	
平安	西暦 927 年	この頃に、加富神社存在。 「加富大明神記」の初版が書かれる	伊勢神宮の延喜式神社名帳に記載あり
	西暦 940 年	この地を吉田郷と呼ばれた	
	西暦 962 年	小山田御厨（みくりや）伊勢神宮所領地となる	
室町	西暦 1460 年	安性寺開山	真宗高田派
	西暦 1489 年	暁覺寺前身の松尾山円通院開山	現在、バス停「山田東」の茶園が有る所
	西暦 1500 年	村名を『吉田郷小山田村』（よしだのごうおやまだむら）と称号する	
	西暦 1550 年	矢田監物某（やだけんもつなにがし）、家来の平尾某（ひらおなにがし）が来郷、山田城を築城	元、足利義晴従者 姓に“矢田、平尾”が多い訳
	西暦 1568 年	この地は織田信長の所領地となる（信長の家臣滝川一益に攻められる）	
安土桃山	西暦 1590 年	“矢田監物”小田原の戦で戦死、一族滅ぶ	
	西暦 1592 年	“法源寺” 村内に移動	向山に在った
江戸	西暦 1601 年	菰野藩（領主：土方河内守雄久侯（ひじかたかわちのかみかつひさこう））所領となる	

江戸	西暦 1602 年	山田に初代の庄屋（西、東）が置かれる	西：平尾重兵衛 東：平尾半兵衛
	西暦 1642 年	山田の農民が内山に移住	内山の起源
	西暦 1647 年	安性寺梵鐘鑄造	明治に改鑄
	西暦 1673 年	平野新田開拓され、山田の農民が移住	西山の起源
	西暦 1686 年	暁覺寺前身現在地に移動	
	西暦 1711 年	加富神社に正一位の神位を朝廷より宣下される	
	西暦 1721 年	暁覺寺梵鐘鑄造	
	西暦 1732 年	加富神社が加富の森より現在地に移った	
	西暦 1805 年	暁覺寺本堂落成	現在の本堂
	西暦 1825 年	八幡山 常夜燈設置される	
	西暦 1854 年	安政大地震、被害甚大（家屋倒壊数戸、死者 9 人）	法源時倒壊（安政 5 年再建）
明治	5～12 年	三重県下第一大区四之小区山田村となる	廃藩置県による変更
	5 年	山田村 戸長：長田敬治郎、副戸長：長田有吉	行政事務を司る、後の村長
	6 年	廃仏棄釈により、法源時廃寺となる	観音さん、お釈迦さんが移動
	8 年	山田学校開校（教員：2 人、生徒：69 人）	現「ひだまり」の場所
	21 年	小学校令により、山田小学簡易科授業所となる	小山、堂ヶ山にもできる
	22 年	山田・小山・六名・堂ヶ山村合併し小山田村となる （三重県三重郡小山田村大字山田）	“町村制施行”
	24 年	山田簡易科授業所は、山田尋常小学校となり現在の小山田美術館の場所に移転	木造平屋
	29 年	大洪水あり、内部川決壊	鹿間集落、現在地に移転
	34 年 2 月	一村一校となり、山田、小山学校が統合し、小山田尋常小学校となる	校舎を増築
	34 年 3 月	高等科を併設し、小山田尋常高等小学校	中学校に相当
	37 年 12 月	小山田郵便局開局	山田の 2058 番地に
	39 年	村長：矢田六右衛門	
43 年 3 月	小山田小学校、校舎移設し増築	現市民センターの場所	

	44年11月	小山田村立農業補修学校付設	農閑期(12月～3月) 4時限
大 正	2年	大正記念事業として、村内道路改修計画出来る	役場への道
	3年6月2日	山田に初めて電気が灯る	第一次世界大戦
	9年4月	小山田郵便局が新築移転	山田町 2294 番地(現太田宅の地)
	12年	山田信用購買販売利用組合設立	農協の前身
		天白川決壊、内部川氾濫し洪水あり	
15年4月	加富神社拝殿再建	現行建物	
昭 和	2年3月	小山田尋常高等小学校に講堂兼雨天体操場新築	大型木造建築。現存せず
	5年	昭和恐慌、農村疲弊深刻化	
	8年	小山田産業組合設立	
	10年	青年学校設立	農業補修学校を改め
	16年4月	小山田尋常高等小学校を小山田国民学校と改称する	
	16年12月	太平洋戦争勃発(四日市から山田へ大勢が疎開)	戦時体制進む
	初期	青年団が活躍 [・花祭りに楽器を奏でながら白象の張り子を子供たちが西寺、東寺の間を引いて歩いた ・天王祭には神社で盛大に夜を徹して踊った]	ほぼ全員が成人すると ‘青年団’に加入した
	17年	小山田村役場を改築	現行小山田美術館の建物
		小山田村立国民学校から小山田村立小学校に改称	
	19年12月	東南海地震	当日“新嘗祭(山の神)”だった
20年8月	太平洋戦争終戦	四日市空襲 20.6.18	
22年	小山田村立中学校、久間田村立中学校設立	新学制に伴う	
	小山田村立小山田小学校と改称する		

昭 和	22年	農地改革実施される	旧来の地主・小作制度は解体
	23年	三鈴中学校設立（小山田中学校、久間田中学校統合） ※実質的に合併発足したのは、昭和25年1月	現在「太陽化学南部工場」の在る場所
	23年3月	小山田郵便局新築移転	山田町2274-10番地(前郵便局)
	27年5月	山田に定期バス運行始まる	三重交通
	初期、中期	主な農産物 [米・麦・蚕繭・茶園・薩摩芋・サトウキビ・大根・スイカ・カブラ]	農業が主産業 水車小屋が2, 3か所在った
	27年	暁覺寺に小山田保育園が開園された	平成10年3月閉園
	27年10月	小山田小学校にプール竣工	県下で最初に設置
	27年	内山町で大火	
	29年3月	四日市市に合併（町名：三重県四日市市山田町）	以前：三重郡小山田村 大字山田
	30年4月	矢田 繁郎さん市議会議員になる	43年11月迄、務められる
	31年	小学校の給食が始まる	パンとミルクと惣菜
	32年	この頃から農業の機械化が始まる	耕運機等が普及し始める
	32年3月	鹿間、和無田が小山田地区に編入	
	34年	簡易水道事業始まる（井戸ポンプで安性寺の上山に在ったタンクに汲み上げ、各戸に配水していた）	この頃、四日市市に企業進出進む
		伊勢湾台風襲来（9月26日）	大被害に遭う
	38年	高花平住宅ができる（高花平小学校開校）	四日市市で初の市営団地
	43年	現在の小山田小学校新校舎竣工	鉄筋2階建6室
	46年4月	青山 峯男さん市議会議員になる	4期務められる。議長に就任
	48年	笹川団地ができる	笹川東小学校開校

昭	49年	青山里会小山田特別養護老人ホーム開設	
		大洪水あり、鎌足川・足見川堤防崩落、橋脚破損	河川改修
和	51年	三鈴中学校が廃校になり、西陵中学校創立	小山田と水沢の校区
	54年3月	加富神社 玉垣・社務所新築	
	55年	地区市民センター現在地へ移転	「小山田美術館」の地に在った
	56年2月	地区広報「おやまだ」1号発行	
	59年	安性寺 鐘楼大修理	
	61年11月	ミルクロード開通	昭和56年完成
		小山田記念温泉病院設立	
	62年2月	四日市南部土地改良区設立される	耕地整理始まる
	63年	太陽化学南部工場建設始まる	旧“三鈴中学校”跡地
平成	元年	西陵中学校通学路拡幅工事	小学校から西山側
	2年	安性寺本堂大修理	
	4年	暁覺寺本堂大修理	
	5年	三重用水の供用開始	
	7年	高若センター（高齢者・若者センター）竣工	避難所指定箇所
		町内放送設備の設置	
	8年	八幡山が農村公園に指定。竹炭設備運用開始。	
	10年3月	小山田保育園が閉園	46年間続いた
	11年6月	山田町自治会地縁団体認可（四日市市）	法人化となる
	14年	四日市南消防署西南出張所開設	市民センターの場所
平成	14年11月	「小山田美術館」開設	青山里会にて
	16年 8月19日	安性寺観音堂御本尊、四日市文化財指定	
		暁覺寺釈迦堂御本尊、四日市文化財指定	
	18年9月	「矢田 監物」展開催	
	19年4月	“自然を守る会”発足	
	19年11月	加富神社 本殿・玉垣新築再建	
	20年7月	太陽化学本社が南部工場に移転	
	23年頃	山田町の空き家が増えてきた	H27.1 現在40軒程度の空き家
	23年	集会所“ひだまりハウス”の開設	

平	24年	向山物流団地造成	太陽化学の北側
	27年1月	“ひだまりカフェサロン” オープン	月2回、日曜日
成	27年4月	“小山田学童保育所” 開設	高若センター
	27年7月	山田で最初の“向山橋歩道橋” が完成する	

・歴代小山田村村長・山田町自治会長殿

自	至	氏名(敬称略)
明治22年	明治24年	村長 豊住嘉吉
明治24年	明治29年	村長 須藤磯治郎
明治29年	明治30年	村長 平山平衛
明治30年	明治31年	村長 須藤磯治郎
明治31年	明治39年	村長 矢田久一
明治39年	明治41年	村長 矢田六右衛門
明治41年	大正5年	村長 豊住梅松
大正5年	大正11年	村長 長田信吉
大正11年	昭和5年	村長 市川巳乃松
昭和5年	昭和13年	村長 青山新兵衛
昭和13年	昭和17年	村長 田中常一
昭和17年	昭和21年	村長 伊藤義雄
昭和22年	昭和23年	村長 長田富次郎
昭和23年	昭和29年	村長 矢田佐太郎 ※四日市市に合併
昭和40年	昭和41年	(東) 須藤三右エ門、(西) 矢田信一
昭和42年		(東) 加藤堯、(西) 竹内源一
昭和43年	昭和44年	(東) 長田柳一、(西) 青山峯男
昭和45年		(東) 大川正郎、(西) 平尾七平
昭和46年		(東) 矢田隆則、(西) 矢田忠
昭和47年		(東) 清水正、(西) 宮崎直人
昭和48年		(東) 清水正、(西) 田中市衛
昭和49年		(東) 矢田均、(西) 矢田康夫
昭和50年		(東) 矢田均、(西) 矢田善一
昭和51年		(東) 清水正、(西) 矢田繁郎
昭和52年		(東) 清水正、(西) 田中市衛
昭和53年	昭和55年	(会長) 清水正、(副会長) 田中市衛
昭和56年	昭和60年	(会長) 伊藤胖、(副会長) 寺田正保
昭和61年	昭和62年	(会長) 伊藤胖、(副会長) 矢田正廣
昭和63年		(会長) 矢田正廣、(副会長) 平尾一三
平成元年	平成2年	(会長) 矢田正廣、(副会長) 矢田清
平成3年		(会長) 矢田正廣、(副会長) 矢田清、平尾一三

平成 4 年	平成 5 年	(会長) 矢田昌夫、(副会長) 富田光範
平成 6 年	平成 9 年	(会長) 宮崎庄司、(副会長) 田中正信
平成 10 年	平成 15 年	(会長) 宮崎庄司、(副会長) 伊藤三郎
平成 16 年	平成 17 年	(会長) 宮崎庄司、(副会長) 矢田活司
平成 18 年	平成 21 年	(会長) 清水正、(副会長) 矢田義秀
平成 22 年	平成 23 年	(会長) 矢田義秀、(副会長) 清水正
平成 24 年	平成 25 年	(会長) 矢田義秀、(副会長) 矢田禎雄
平成 26 年	平成 27 年	(会長) 矢田義秀、(副会長) 伊藤政男

・山田町戦没者の方々

戦 没 者 名 (西南・日露・大東亜戦争)			
山田東		山田西	
矢田 幸郎	矢田 恒夫	平尾 松蔵	宮崎 権也
伊藤 作治	矢田 七郎	矢田 三一	中村 康夫
伊藤 正	伊藤 大助	古市 由松	宇佐美 庄五郎
田中 春吉	平尾 進	矢田 吉衛	竹内 元廣
矢田 一雄	加藤 三郎	矢田 吉金	矢田 正一
加藤 一雄	伊藤 正司	平尾 義郎	平尾 由男
辻 弥一	矢田 優一	矢田 数一	矢田 義博
矢田 弘一	森 定生	伊藤 重則	平尾 新十郎
寺田 定郎	田中 辰己	須藤 良三郎	平尾 伊佐夫
永井 彰	矢田 忠義	矢田 勇次	矢田 富夫
森 幸夫	矢田 欽也	伊藤 一好	宇佐美 精一
矢田 康治	須藤 次郎	川村 種吉	伊藤 幹二
福掘 秋蔵	伊藤 寛	矢田 善吉	水谷 音市
矢田 六三	須藤 昇	矢田 久一	宇佐美 清隆
森 金男	竹内 琴治	森下 孫三郎	矢田 勇治
山川 利次	矢田 俊彦	矢田 三千人	伊藤 幸夫
平尾 幸雄	森 英一	鈴木 常夫	平尾 丈郎
矢田 幸三	矢田 佐平	平尾 功	矢田 龍夫

山田の言葉

標準言葉	山田言葉
熟す	アコロム
不味い	アジナイ
赤ちゃん	イガ
同じ	イッショ
晴れ着	イッチョラ
もぐら	ウグロ
猿	エテコウ
鉛筆	エンペツ
釜戸	オクドサン
騒ぐ	オダツ
おおちゃく	オッチャクイ
かかし	オドシ
お茶	オブ
重い	オボタイ
乳母車	オンバ
疲れてだるい	カイダルイ
家の庭	カサマイ
稲子	ガタギ
崖淵	ガケッコ、ソワ
裏前	カサマイ
稲子	ガタギ
ビー玉	カッチン玉
乾燥した状態	カンピンタン
左利き	ギッコ
昨日	キンノ
蛇	クチナワ、サトマワリ
不完全燃焼	クスボル
マキを窯に入る	クベル
うらやましい	ケナルイ
トウモロコシ	コウライ
怒れる	ゴウワク
御院主	ゴエンサン

標準言葉	山田言葉
全てを取る	コソゲル
くすぐる	コソグル
くすぐったい	コソバイ
草むら	ゴソワラ
豪華料理	ゴツツオ
焦げ付く	コビリツク
罨	コボチ
頭	コンベ
牛蒡	ゴンボ
大量	シコタマ
地面	ジベタ
滲みる	シュム
汚い恰好	ショブタレ
草履	ジョリ
小便	ションベ
充分	セイサイ
丁寧にしない	ダダクサ
無駄に使う	ダダラ
満腹	タラフク
構わない	ダンナイ
便所	チョウズ、センチ
少し	チョボット
重ねて置く	ツクネル
しゃがむ	ツクボル
食べ過ぎ	ヅツナイ
冷たい	ツベタイ、ヒヤコイ
畳の間	デー
倒れる	デングリカエル
時々	テンネニ
大きい	ドエライ、ガトウニ
頭	ドタマ
年寄り	トッシヨリ

標準言葉	山田言葉
汚れた川、沼	ドブ
最後尾	ドベ
湿田	ドベタ
いやなこと	ドモナラン
どぐさい	トロイ
ドジョウ	ドンキュ
行動が遅い	ドンクサイ、ドグサイ
菜切和包丁	ナガタン
暖かい	ヌクトイ
隣近所	ハタマワリ
困る	ハドル
膝	ヒザポー
冷たい	ヒヤコイ
昼間	ヒンナカ
メンコ	ブツケン
曲がる	ヘチガム
着物	ベベ
蜘蛛の巣	ヘンバリ
大きい声	ホエル
古い	ボッコイ
そしてから	ホンデカラ
トンネル	マンボ
みみず	メメズ
早々	モウハイ
火傷	ヤケツリ
昨夜	ユンベ
たくさん	ヨーケ
夜	ヨサリ
深夜	ヨナカ
招待、食べる	ヨバレ、ヨバレル
悪さ	ワヤク
滅茶苦茶言う	ワヤユウ

標準言葉	山田言葉

山田100年の写真集

ひだまり語る会 平成27年6月吉日

大正3年3月 小山田尋常高等小学校卒業記念

今村武俊氏提供 今村治一氏、安性寺竹内宜演氏写る



昭和12年度小山田小学校高等科卒業記念



山田100年
 小山田小学校
 昭和12年度卒業生
 卒業生の名前が記載されている
 写真 竹内雅彰氏提供

卒業生の名前が記載されている 写真 竹内雅彰氏提供



昭和20年度小山田小学校卒業記念（21年3月）

戦後最初の女子卒業生講堂横にて 竹内雅彰氏提供
新制中学校第1回生卒業記念昭和23年3月



戦後の新制中学で、当初の小山田中学校生としての卒業 写真竹内雅彰氏提供

安性寺日曜学校記念（昭和18年頃）小学校運動場南斜面にて



竹内雅彰氏提供

加富神社みくわ祭り祭礼巫女記念 社務所前にて

昭和28年3月9日 矢田活司氏提供





夏祭踊り記念

29.7.18日



花祭り記念 (安性寺にて)

30.4.3日

花祭り記念 安性寺にて 昭和30年4月3日 写真 矢田活司氏提供
 上は夏祭り 昭和29年7月 写真 同上

花祭りの象さん 写真提供・栗本義和氏



安性寺鐘楼と大銀杏（鐘楼改修時に伐採された）・安性寺竹内宜秀住職提供





暁覚寺 小山田保育園卒園記念（昭和45年） 写真 中沢見恵氏提供



園児の遊び、

小山田全景写真 三鈴中学校上空より（昭和47年春） 矢田活司氏提供



写真・明治期の小学校卒業記念（現ひだまりハウスのところにあった山田学校）と思われる。

平尾勘司氏提供

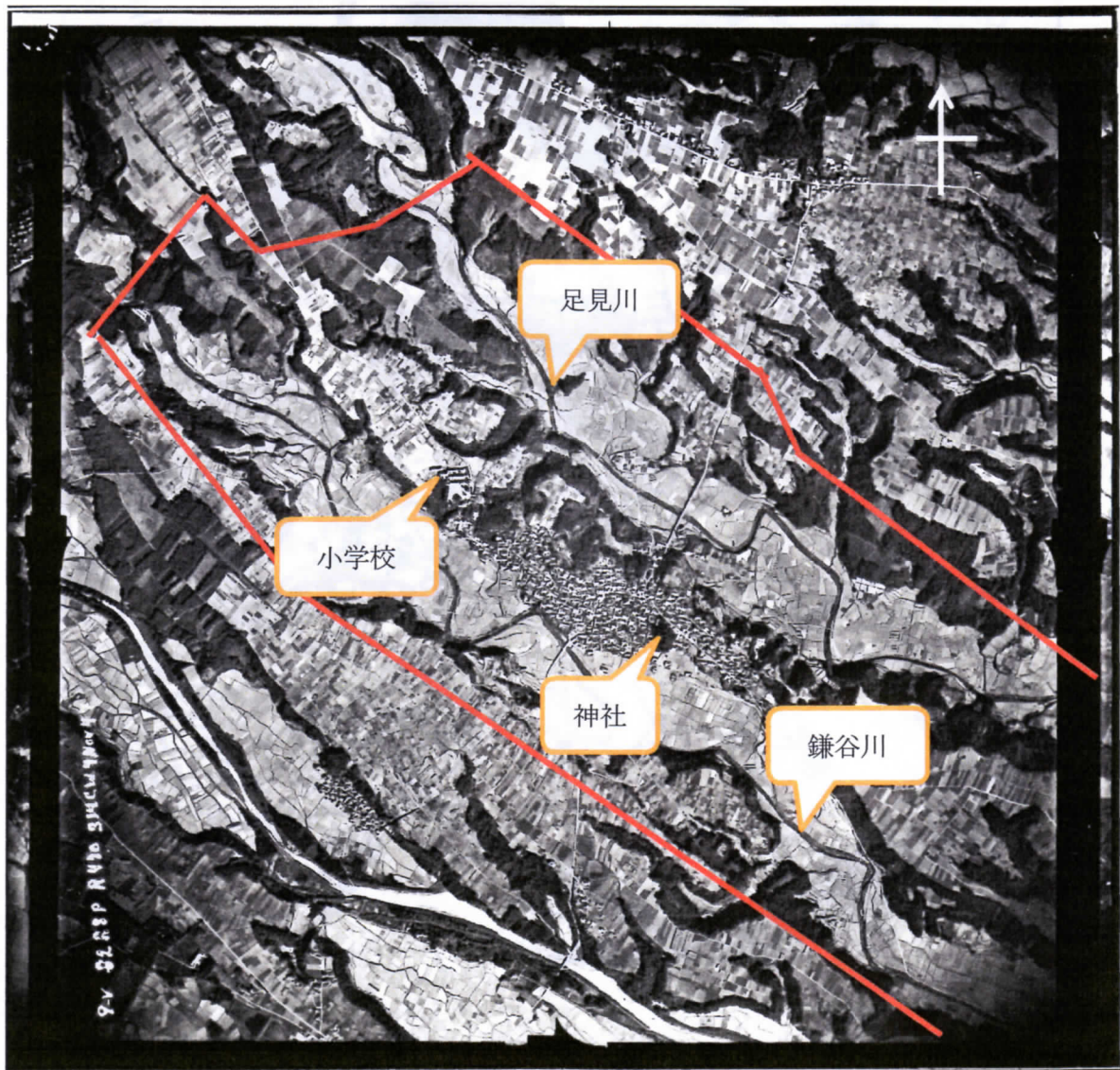




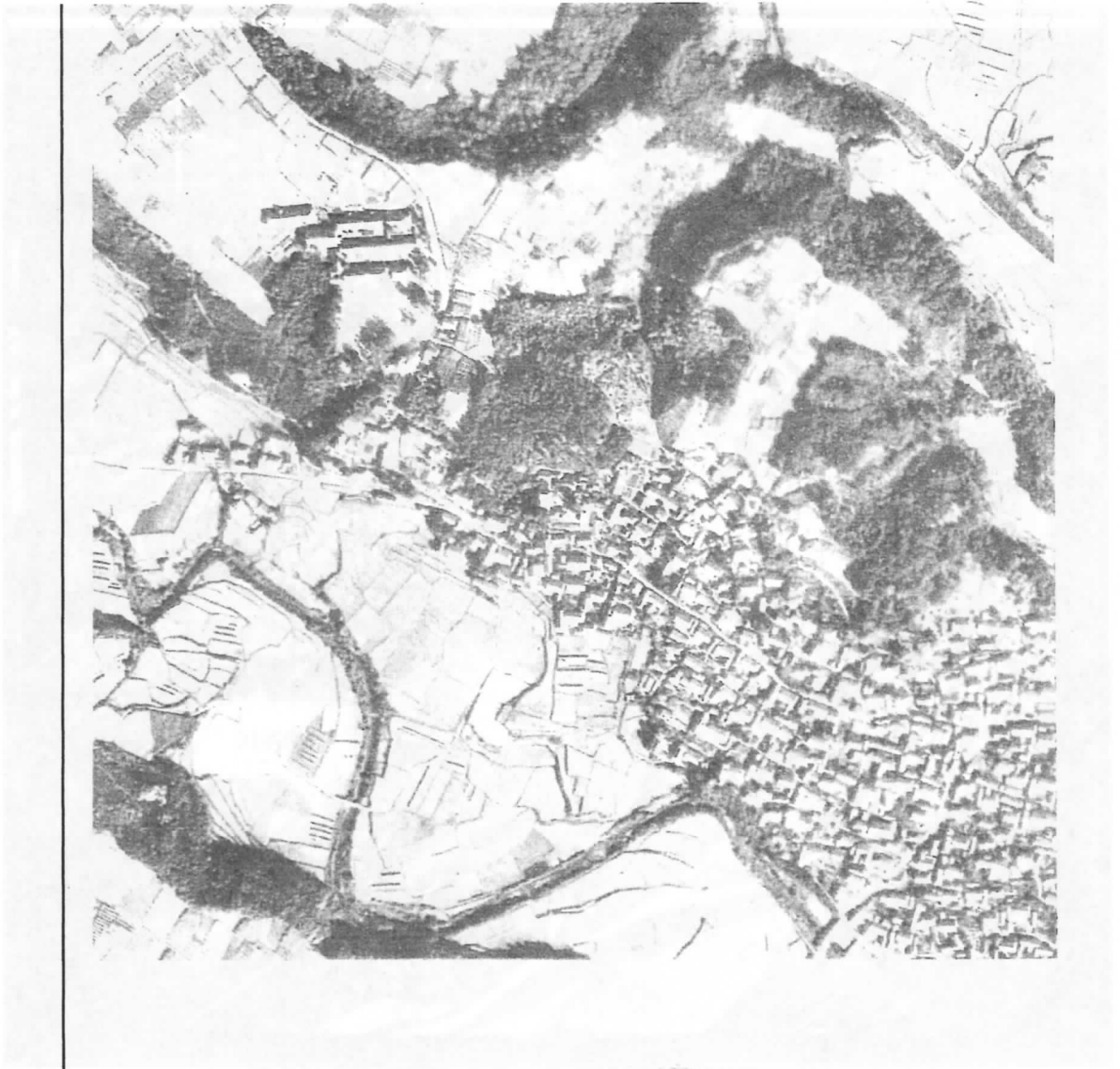
三鈴中学校
校門

矢田（旧姓加藤）伸子氏提供・1965年卒業アルバムより
写真上 1965年卒業時 三鈴中学校先生一同
写真中 正門から望む玄関 写真下 D組卒業生一同





山田町の航空写真（赤枠内が山田）
昭和22年米軍撮影航空写真を日本地図センターより自治会が入手



航空写真拡大・小山田小学校付近



航空写真拡大・加富神社付近